

R6 木津川下流河川保全利用委員会 結果報告

日 時： 令和 6 年 9 月 27 日(金) 13 時 30 分～15 時 00 分
場 所： 京田辺市商工会館（京田辺市）
参加者数： 委員 4 名、占用者 9 名、一般傍聴者 1 名
河川管理者 3 名、事務局 3 名

1. 議事内容および出席者

木津川下流河川保全利用委員会の議事内容および出席者は、以下に示すとおりであった。

議事内容

- 1) これまでの会議の報告
 - ①令和 6 年度 連絡調整会議の報告
 - ②令和 6 年度 占用者説明会の報告
- 2) 令和 6 年度審議対象案件の審議
- 3) 一般傍聴者からの意見聴取
- 4) とりまとめ
- 5) その他



委員会の様子



委員会の様子

出席者

	委員名	所属・役職	備考	出欠
委員	村上 興正	元 京都大学理学研究科 講師	委員長	○
	宗田 好史	関西国際大学 国際コミュニケーション学部 教授	副委員長	○
	久保田 洋一	(株) 関西総合研究所 研究フェロー		○
	辻本 哲郎	名古屋大学 名誉教授		×
	坂東 美紀	公益財団法人 京都府スポーツ協会 事務局長		○代理
行政委員	京都府総合政策環境部 自然環境保全課 課長			×
	京都府教育庁指導部社会教育課 課長			×

2. 現地視察

委員会開催に先立ち、現地を視察した。

現地視察先	占有者
No. 34 川口市民公園	八幡市 建設産業部 道路河川課
No. 33 木津川河川敷運動広場	久御山町 都市整備部 建設課
No. 35 京都府木津川運動広場	京都府山城北土木事務所 施設保全課
No. 31 城陽市立木津川河川敷運動広場	城陽市教育委員会 文化・スポーツ推進課
No. 36 田辺木津川運動公園	京田辺市 建設部 公園緑地課



No. 34 川口市民公園



No. 33 木津川河川敷運動広場



No. 35 京都府木津川運動広場



No. 31 城陽市立木津川河川敷運動広場



No. 36 田辺木津川運動公園

3. これまでの委員会の報告

今年度実施した、「連絡調整会議」、「占用者説明会」の内容について報告した。連絡調整会議において、水辺のにぎわいに関する話題があった。水辺の活用がスポーツ利用からにぎわいに展開しつつあるが、環境への配慮が十分必要だということを再認識した。

4. 令和6年度審議対象案件の審議

令和6年度審議対象の5件について審議した。審議対象案件に対する委員会意見は次のとおりである（審議順）。

■No. 34 川口市民公園（八幡市、ランク A）

- ・緑のグラウンドは土に比べて快適そうに見えた。
- ・河川敷の野球場は「草野球」がよいと改めて思った。
- ・看板に対する指摘に対して対応されておらず、来年度検討、という回答では弱いのではないかな。
- ・子どもを対象とした勉強会も最近は行われていないように見受けられるので関係部局と協働で対応されたい。
- ・令和 3 年以降の冠水状況は？
⇒令和 5 年 8 月に冠水し、表土を整地した。
- ・過去の出水後の災害復旧でトラック 20 台分の土砂を入れたことがあったのではないかな。
⇒今回はそこまで入れていない。
- ・冠水後の復旧状況などの対応について、ほかの占用地の記載を参考に詳しく記載されると理解しやすい。
- ・看板について、ピックアップされている種の選び方は重要。その地域に特徴的な種、希少種よりも比較的好く目につく種を選ぶとよい。
- ・例えばアレチウリが問題になっていればそれを紹介し、問題点などがその場でわかるような内容になっているとよい。アピールしたい点をわかりやすくしたほうが良い。
- ・問題となっている外来種があるならそれを紹介するのもよい。対策のイベントなどに結び付けられると、なおわかりやすい。
- ・土砂の搬入の件、過去には対岸の住民などが安全度の心配をして意見してきたこともあった。委員会としては災害が起きないことを第一に考えなければならない。
- ・自然災害が頻発している昨今の状況も踏まえ、住民の安全を確保することは重要である。
- ・草が広いのはよいが、バッタがもう少し多くいてもよいと感じたが案外少なかった。草の刈り残しを検討されたい。今日見たほかの場所の刈り残しはかなり効果があったように見受けられた。
- ・多目的広場としては良く管理されていてよかった。
- ・ランク A を継続、占用期間を 3 年とする。

■No. 33 木津川河川敷運動広場（久御山町、ランク A）

■No. 35 京都府木津川運動広場（京都府、ランク A）

- ・バッタがとてもたくさんいた。子どもが安全に遊ぶことができる、面白い場だと思う。
- ・草張りのグラウンドは冠水時にも流水に耐えられるので評価したい。
- ・水辺は確かに危険だが、生物の生息場、防災の場など川が有するプラス面も積極的に紹介してほしい。
- ・資料にもいろいろ書いてあるがスポーツ目的の利用者に「川を利用していること」を再認識してもらうような取り組みも大事である。
- ・イベントに参加した人の感想などがわかるとよい。効果として評価できる。
- ・「この先危険」の看板の先の杭が老朽化していたので補修してほしい。
- ・サイクリング利用はどうか？
⇒基本的に対岸の八幡市側が通りやすいのでそちらのほうが多いが、国道 1 号線をくぐるルートが整備されたので利用者は増えていると実感している。
- ・昨今の自然災害の頻発もあり「川は危険」というイメージが強くなってしまっている。日常的に人々に利用されていることもアピールしていきたい。人々の生活と密接なつながりがあるのに切り離されていくように感じる。
- ・もともと、グラウンド利用を減らそうという方向だったが、最近は川とのつながりを日常的に保ってもらうことが重要だという方向にも変わってきている。
- ・2 施設併せて、ランク A を継続、占用期間を 3 年とする。

■No. 31 城陽市木津川河川敷運動広場（城陽市、ランクA）

- ・資料を見ると環境学習に積極的に取り組まれているのが良い。
- ・自然観察会、クリーン作戦など、大変良い取り組みなので継続されたい。教育系の関係部局などと定期的に協議を重ねて対応されたい。貴重種を確認したということなので、場所の特定などに気をつけながら、広くアピールされるとよい。
- ・貴重種、特に植物や昆虫の公表は、乱獲などの対象になってしまうことがあるので慎重に対応されたい。
- ・利用者数が多いが大会の開催地なのか？
⇒野球、テニスなど様々な大会が行われている。
- ・サクラの整備箇所について利用者は把握しているか？
⇒人数までは把握していないが利用者数が多いのは確認している。
- ・貴重種と利用者増、バランスを考えて対応されることも検討されたい。
- ・以前はカヌー利用があったということだった。あらためてカヌー利用を復活させるような話はあるか？
⇒現時点では聞いていない。
- ・水辺に降りられないのは残念に思う。
- ・木津川の本川は砂河川特有の良好な河原が広がっている。占用地から河原へ接続するようなルートがあるとよいのだが、現状では水辺に降りていくのは推奨されていないのが残念である。
- ・水難事故は全国的に増えている（外国人が増えている）。当該地域では特に増えているわけではないと思われるが、桂川渡月橋付近で外国人が水浴びをして地元から問題としてあげられている。
- ・木津川の特長である砂河川の河原を生かした利活用があってもよいのではないか。
- ・いかにして水辺で遊ぶかをもう少し考えていただきたい。
- ・ランクAを継続、占用期間は3年とする。

■No. 36 田辺木津川運動公園（京田辺市、ランクA）

- ・他と違い裸地が多いのが気になった。利用頻度が多いのかもしれないが、他のグラウンドの刈り残しなども参考にされるとよい。
- ・説明があったのでクリーン作戦などの取り組みがわかったが、添付資料がないので今後は対応されたい。
- ・草地にする可能性はあるか？
⇒利用頻度が多く、養生の期間が十分に取れないため困難と考えている。
- ・全国的に裸地が徐々に草地に変わっていつているようだ。少しずつでも変えていく時期かもしれない。冠水時に土砂の流失を抑える効果も期待できる。
- ・スポーツ利用もサッカー、野球などから多様化してくることが考えられる。
- ・できることから、実行可能性を考えながら対応されたい。
- ・ランクAを継続、占用期間を3年とする。

5. 一般傍聴者からの意見聴取

- ・一般傍聴者からの意見なし。

6. その他

- ・なし

以 上